

七夕（たなばた）考察

1. 七夕の紀元は？

七夕は中国古来の伝説に基づく行事。仏教と関係が深い。

中国では、織女星（こと座の1等星ペガ）は天帝の娘とされていた。天帝は織女の伴侶を求めて、牽牛星（わし座のアルタイル）に目をつけた。牽牛は働き者で農耕の主力である牛を牽く仕事が得意だった。→ 無事に結婚。

新婚アツアツの夫婦は仕事をしなくなった。→ 天帝（注1）は怒って、2人を天の川を隔てた両端に離してしまった。但し、1年に1度だけは会えるように計らった。→ 7月7日（3世紀の晋の時代の文献に7月7日という日が登場する）（注2）

2. 七夕を何故“たなばた”と読むの？

七夕伝説と行事は、奈良時代に仏教とともに日本に伝わった。当時、日本には似たような伝説があった。→ 棚機津女（たなばたつめ）の伝説（古事記）

タナバタツメは織女。村の災厄を除いてもらうため、水辺で神の衣を織り、神の一夜妻となるため、機屋で神の降臨を待った。（神が降臨したのが7月7日という記載あり。）

⇒ 中国の七夕伝説と日本の棚機津女の伝説がミックスして、後に伝わった。

3. 天の川とは何なの？

昔は、天の川を眺めて、地上の川が天上に映ったものと考えた。

北海道（アイヌ）では石狩川、インドではガンジス川、エジプトではナイル川。

中国では、黄河が銀色に映じているので銀河と名付けた。

実際は、無数の星の集まり。太陽系（地球を含む）は銀河（Galaxy）の一部。我々（地球）は銀河の内側から見ている。ペガとアルタイル間の距離は16光年。とても牽牛と織女が会える距離ではない。

4. 五節句とは？

奈良時代に定めた節句。陰陽学では奇数は“陽”だが、同じ奇数が重なると陰になる。

- | | | |
|------|--------------|------|
| 1月1日 | 人日（じんじつ）の節句 | 正月 |
| 3月3日 | 上巳（じょうし）の節句 | ひな祭り |
| 5月5日 | 端午（たんご）の節句 | |
| 7月7日 | 七夕（たなばた）の節句 | |
| 9月9日 | 重陽（ちょうよう）の節句 | |
- 要は、季節の変わり目。

(注1)

中国では、天界を管轄するものを天蓬元帥と呼ぶ。織女伝説の頃の天蓬元帥は“猪八戒”。猪八戒は女癖が悪く、酔った勢いで嫦娥（じょうが）姫（月の神さま）をレイプする。このため天界を追われて死刑となる。転生輪廻からすると人間に生まれ変わるはずだったが、誤って雌ブタの胎内に入り、黒ブタの妖怪となった。成長してからも好き放題をやったが、後に、玄奘三蔵に弟子入りし、孫悟空、沙悟浄らとともに天竺まで経典を求める旅に出かける。⇒ 般若心経

(注2)

7月7日と定められたのは、仏教に大いに関係ありという説。
旧暦4月8日（釈迦の誕生日）から290日（十月十日）を引くと、大体、旧暦7月7日になる。つまり、釈迦は牽牛と織女のハネムーン・ベビーという説。